

井戸端だより

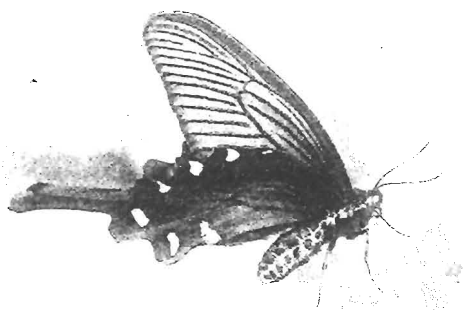
第63号

発行日：2008. 9. 29

発行：くらしの学習会

も く じ

『残したい東温市の自然展』開催報告	1
『残したい東温市の自然展』来場者の声	3
9月例会報告	4
日本語教育学世界大会2008に参加して	7
人生精一杯	10
ことしもジャコウアゲハが	15
雑感	16



『残したい東温市の自然展』開催報告

「井戸端便り62号」にてお知らせしておりました、7月26日（土）東温市中央公民館一階ロビーに於いて『残したい東温市の自然展』は、10:00～15:00の5時間と短時間にもかかわらず、約100名の方々にお越し頂き、無事終わらせることができました。「くらしの学習会」としては久しぶりの外部向け企画の実現に当たり、貴重な作品や資料を快く提供していただいた白形氏・奥川氏に感謝すると共に、暑い中、足を運んで下さった皆様に心より御礼申し上げます。

開催にあたり、関係者間の連絡・お知らせポスター作成・会場内に張る案内版の題字や説明文の作成・必要資材の購入等担当を決め当日に備えました。開催日前日午後、会場準備。作品を飾るボードを倉庫から運び出し組み立て、決めておいた会場のレイアウトに沿って並べ大体の会場が完成。活動メンバーが集まり白形氏と共に作品のレイアウトを決めながらフックを取り付け前日準備終了。開催当日8:30集合し作品の搬入展示、追加作品の展示方法を決めたり、テーブルの配置換え、様々な雑事を終える頃には開場時間になっていました。（来場者には「三ヶ村泉絵葉書」を一枚ずつ差し上げ感謝の気持ちとしました）

この日、中央公民会は海外留学生の泉めぐりを行う為の集合場所になっていた事もあって、留学生の皆さんにも観て頂きにぎやかな開場となりました。購読会員の方々、メンバーの知人、ポスター・ちらし・広報で知った方々等、次々来場されゆっくり観覧されていました。懐かしい顔に出会えたり、メンバーそれぞれの知人が共通の友人だったり、会場で出会った方が中学の同窓で25年振りの出会いだったり、「三ヶ村泉の絵葉書」を探していて会場で発見し喜んでもらったり、色々な出会いの場となった事も喜ばしい事でした。

展示作品については、白形氏の東温市の絵 15点（三ヶ村泉・皿が峰・東温市の様々な風景を切り取った作品）たくさんの植物標本 約85点（「今の所レッドデータブックに掲載されるまでには至らないが、いつ無くなってしまうか分からない植物標本の方が自分の描いた絵より大事かも」と話していた事を思い出し、ボード3枚分の貴重な植物標本の展示に東温市の自然の

奥深さを感じました)

奥川氏の野鳥・哺乳類の写真10点(カワセミ・ヤマセミ対の写真・5匹狸ニホンイノシシのカメラ目線ショット写真・ムササビ・アオバズクなど時間をかけ撮られたであろう作品)巣立った後の巣・キジの尾羽根やフクロウの羽根などの提供もありました。当日持参されたクマタカの原寸大に拡大された写真(約1.5m)を、急遽ボードを用意し通路側に展示。ダイナミックな写真に圧倒されました。

午後3時閉会時間、作品の片付けに白形氏の知人が手伝ってくれ、会場準備には約4時間かかったが、片付けと現状復帰は1時間程度で終わらせる事が出来、人数の多さと男性のパワーにとっても助けられました。

その後、くらしの学習会のメンバーで一休みしながら今後の活動について話し合いました。その話の中で、「愛媛圏外の学習会のメンバーが愛媛を離れたら『くらしの学習会』の活動はどうになってしまうのか?」と話をふると、「パソコン上で交流できるし、どこかで集合し出会う事も可能様々な手段を使って続けて行けるのではないかと。アナログ人間の私にとって「目から鱗」状態の話に、頭の切り替えを余儀なくされそうです。まだ暫くはこうして顔を合わせる活動が出来そうですのでコツコツやれる事を楽しんで参加したいと思います。

A. M

『残したい東温市の自然』展

来場者の声

ありがとうございました。

こんなに素晴らしい自然が東温市に！

写真も絵も押し花も作者の心がずい所に表現されていて感動しました。

この地域を思い生きとし生けるものを愛されているくらしの学習会の皆様の視点と心にも感動しています。日頃より実践されているいろいろと……Mがいつもほめて話してくれています。今日は気さくにお話でき接することができて幸せです。それに自立したボランティアの姿を多くの市民が感じあちこちでこの輪が広がることを念じています。

お土産*まで本当に有難うございます。

Yさんと共に感謝申し上げます。

Y・Oさん

*：来場者にくらしの学習会特製三ヶ村泉の絵葉書1枚ずつ進呈しました。

個人名は、すべてイニシャルに代えさせていただきました。

東温市にこんなにいろいろな美しい鳥がいるとは知りませんでした。写真をとるにはきっと何日もかけてとられたんだと思います。

白形さんの絵は前から好きでしたが、自分の住むところをこのように描いて下さるとうれいすね。あらためていいところに住んでいると思いました。

良い企画をありがとうございました。 K・Kさん

フクロウのひながすごくかわいかったです。後、アカショウビンがとても小さくてかわいいと思いました。 Y・Wさん

9月例会報告

* * * 香川県立東山魁夷せとうち美術館を訪ねて * * *

日程 9/9 9:00 Hさん宅出発 5名乗車
9:05 見奈良駅 2名乗車 (計 7名参加)
9:20 川内インターより高速自動車道を利用して香川県へ
11:30 昼食 カサ・デル・マール (c a s a d e
l m a r) にて 瀬戸大橋記念公園の隣に位置し サービス
の行き届いたレストランで大満足。
大きな窓ガラスから見える海と太陽と雑味のないお料理!再訪したい
レストランでした。インターネットで探し当てたOさんに感謝。
12:30 せとうち美術館入館
16:30 Hさん宅帰着 Hさん、長時間の運転、本当
にご苦労様でした。
会員の皆さんもお疲れ様でした。

東山魁夷 年譜

1908年 (M41) 横浜にて出生 祖父が瀬戸内の櫃石島出身
1911年 (M44) 神戸に転居
1926年 (T15) 東京美術学校日本画科入学
1929年 (S4) 帝展入選 仕送りを断り 少年倶楽部等の挿絵で自
活
1931年 (S6) 東京美術学校卒業 奨学金を受け研究科へ進学 雅号を
魁夷とする(23歳)
1933年 (S8) 卒業 8月渡欧 10月ベルリンに到着 第一回日独
交換留学生になる
1935年 (S10) 父危篤のために留学を断念して帰国
1937年 (S12) 初個展 (滞欧 スケッチ展) を神戸にて開催
1940年 (S15) 結婚

1945年（S20）7月招集 熊本の部隊に配属（37歳）

1946年（S21）3月第1回日展 落選 10月第2回日展（水辺放牧）入選

1947年（S22）3月第3回日展（残照）特選 政府買い上げ 東京国立近代美術館所蔵

残照の特選をきっかけにして これ以後 風景画家として立つことを決心(39歳)

1969年（S44）文化勲章受賞 61歳の受賞は最年少記録

1975年（S50）唐招提寺障壁画 第1期（出雲）（涛声）

1980年（S55）第2期（黄山晓雲）（揚州蕉風）（桂林月宵）

1998年（H10）日展（月光）発表

1999年（H11）享年 90歳 絶筆（夕星）

瀬戸大橋記念公園に隣接する美術館は、昭和42年の番の州埋め立て工事で造られた土地のなかにある。人工の土地ではあるが、番の州は40年の経過で自然を感じられる土地になっている。美術館は平成16年に竣工。公園としての利用のみならば、散歩や運動をする人々にはこの上ない環境だが、残念なことに工場の誘致があり、化学工場の匂いが少しした。美術館の海の匂いも気になった。しかし、沙弥島が見えるすばらしいロケーションは、それらを引いても、満足感が勝った。真っ青の空、島と海。気持ちのやすらぐいいところだと思う。

沙弥島は時間の関係で散策できなかったが、美術館で頂いた美術館周辺案内によると、万葉の島として知られ、柿本人麻呂ゆかりの史跡などもあり、一周約1キロの遊歩道の散策にも興味がそそられる。

瀬戸内海記念公園周辺の風景のすばらしさとレストランのよさで、心も体も美術館モードに。ゆとりの時間を満喫するための準備は万全になった。

魁夷の祖父の出身が榎石島という縁での作品の寄付が美術館のきっかけになったそうだが、展示作品中の原画の数が少ない。リトグラフも多く、映像での作品鑑賞がメインに。それでも、魁夷という人の作品を知るいい

機会になった。

日展の特選で風景画家となった彼は 39 歳になっていた。時代の所為にしても遅い成功だといえる。才能には恵まれながらも、時代が戦争に向かう国での画家としての生活は苦勞があつたに違いない。しかし、ここでは、苦しい時代を想わせる作品は一枚も見なかつた。

図書館の魁夷集で月光や夕星や唐招提寺を見た。解説の中に、魁夷は風景との対話を作品にしているとあつた。唐招提寺の障壁画の鑑真和上への深い畏敬の念の作品も本物を見たくなる。89 歳で日展に出した（月光）は真っ白の風景画。朽ち果てた老木が中央にあり、一面雪景色。90 歳の絶筆（夕星）は暗い青。湖と木々と。深い青。薄暗い青。青い空の中央左に光り輝く小さな星。小さいけれど、強い光。絶筆となった作品だか、希望とか未来を感じさせる。光は永遠だということか。

また、魁夷は本能的に北の風景を好むとあつたけれど、四国で生まれて育つた私でも、魁夷の作品を見ていて、自分自身の原風景が脳裏によぎる。過去を想える安心感。思い出す景色がある幸せをほんわかと感じさせてくれる。彼の作品は個々の人々の、けれども、人々に共通する心象風景を表現していると思う。人は全く違う経験をしているようでも、案外、同じようなことを経験しているのかもしれない。心の中のふるさとは共通項がいっぱいある。

★ その他の魁夷美術館

長野県信濃美術館 東山魁夷館（善光寺東隣・城山公園内）
千葉県市川市東山魁夷館

(M T)



日本語教育学世界大会 2008 に参加して

7月11日(金)から13日(日)まで韓国プサンで開催された日本語教育学世界大会に参加することができた。できれば行きたいと思っていたのだが、この時期まだ大学の授業の最中で、土日を含むとはいえ3日+渡航のための時間を確保することができないため参加はほとんど諦めていた。ところが、高知大学の先生から強力に参加を勧められた上に、ティームティーチングで組んでいる教師仲間の一人から、授業時間を交代してもいいという有難い申し出があり、急きょ参加が現実味を帯びてきたのだ。しかし限られた時間の中でプサンへはどうやって行けばいいのか、松山から行くのは実に大変だということがわかった。プサンは九州からは実に近いところなのに、松山から九州へはそれほど便利とはいえない。また、行きは福岡からフェリーなら3時間で行けるとして、プサンから戻ってくるフェリーの便は比較的早い時間に終わるので、往復使えないのであればあまりうまみもない。結局10日木曜日午後5時半に授業を終え、8時過ぎの飛行機で名古屋へその日は泊まり、次の朝中部国際空港から9時半の直行便でプサンへ、11時過ぎにはプサンの空港に着けることがわかった。これであれば11日の午前の基調講演は聴けないが、午後から始まる学会発表には間に合う。これだと思った。名古屋なら実家があるので宿泊代が浮く。非常勤の身では出張旅費は出ないので、代金の安いのも魅力だった。JALを使って名古屋からプサンまで往復で2万9千円、松山から名古屋まで国際線につなげる国内便の利用ということで片道1万円余り、燃料サーチャージが加算されたものの6万円ちょっとで行けることがわかった。

かくして、私のプサン行きは実現したというわけである。プサンでは高知の先生とツインルームをシェアしたので、学会の準備したプサンのリゾート地、海雲台の高級ホテルに格安で泊まれた。

プサン外国語大学で開催されたこの世界大会には24カ国から参加1500人以上、発表者700人以上、運営学生ボランティア500人以上というすごいものだった。現在日本語教育に携わっている中心的な先生がたがほとんど集まっているというもので、ミーハー的興味だけで参加したとし

ても感激の場だった。参加者に配られた予稿集が何と、分厚い電話帳3冊(1340ページに及ぶ)分もあった。4グループ14セッションに分かれているので現在日本語教育界で問題になっているすべてのテーマが網羅されていた。愛媛大学からも1本口頭発表を出していて、専任の先生が行った。私はこの機会を大いに生かすべく日頃から興味のある内容の発表や最先端の先生方の招待発表を聴き回った。エレベーターのない大学の構内を例の電話帳3冊分を抱え1階から5階まで上ったり下ったり大変だった。しかも、聞きたいと思う先生の発表は、聴衆が多く立ちっぱなしで聴くことがほとんどで体力的にはきつかったが、精神的には満たされた。時間の関係でもう少し聞きたいというところで終わるものも多かったが、その先は自分への宿題だと理解して今後の研究に自分なりの解答を準備した上で先生方の今後の発表を待ちたいと思った。学会は日ごろの忙しい毎日から解放され、客観的に今の日本語教育の趨勢を理解し、自分の現状を把握できる場である。大いに刺激を受けこれから先の方向性を自分なりに見つけられる場でもある。また学会でしか会えないほかの地域で頑張っている先生方と話ができる場でもある。特に今回の学会は、二日目のシンポジウム「グローバル化時代にこたえられる広域日本語教育のネットワーク作り」で、韓国人の先生が中心となって「日本語教育広域化構想」が提唱されたということで、大いに刺激を受けた場でもあった。国内にとどまらず世界に目を向けた日本語教育の今後というスケールの大きさに興奮した。今、日本では行政改革の一環として独立行政法人化された国立国語研究所もその内容及び規模が縮小され、今までしてきた日本語そのものの国としての調査研究活動が危機に陥っている。他国の国としての日本語への取り組みの素晴らしさに頭が下がる一方、大本の日本の現状を嘆かざるを得ない。

朝から夜まで内容豊富な学会スケジュールで時間もなくブサン観光は全くできなかったが、初日の夜の懇親会で韓国の伝統音楽に触れることもできたし、二日目の早朝、リゾート地の海岸を散歩することもできた。その夜は、高知の先生たちとブサンの有名な市を歩き、買い物をしたり韓国料理を食べたりすることもできた。

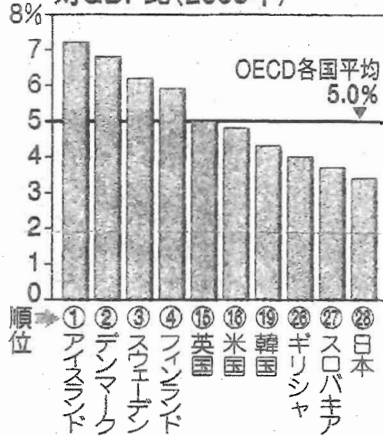
最終日 13 日は、終了近くまで発表を聞いた後、午後 6 時過ぎの飛行機で名古屋に戻り、泊まり、月曜日朝 7 時半の飛行機で松山に戻り、午後 4 時からの授業に十分間に合った。

ハードなスケジュールではあったが、意義のある国際学会参加となった。
(T・H)

日本 教育財政支出が最下位

先進 28 개국
05 年調査 GDP 比 3.4%

教育機関への公財政支出の対GDP比(2005年)



経済協力開発機構 (OECD) は九日、加盟各国の二〇〇五年国内総生産 (GDP) に占める教育への公財政支出割合について調査結果を発表、日本は前年よりも 0.1 ポイント減少し 3.4% で、データ比較が可能な二十八カ国中で最下位だった。

調査は国と自治体の支出総額が対象。日本は〇三年も最下位で、〇四年はワースト二位。先進国最低の教育投資について文部科学省は「GDP は伸びたが、少子化の影響で公立学校の教員数が減り、給与支出や施設整備費が減ったことが背景にある」としている。

調査結果によると

二十八カ国の平均は 5.0%。一位は 7.2% のアイスランドでデンマークの 6.8%、スウェーデンの 6.2% が続き、北欧の国が上位を占めた。下位三カ国は日本のほかスロバキアとギリシャ。

教育段階別の公財政支出でみると、小中学校までの初等中等教育では、日本は 2.6% で下から三番目。大学などの高等教育は 0.5% で各国平均のほぼ半分となり最下位だった。

教育費全体に対する私費負担の割合は、日本は 31.4%。韓国、米国に続いて三番目に多く、公的投資の少なさを私的支出で補っている実態があらためて浮かんた。

日本の私費負担は、義務教育と高校では一割だが、幼稚園などの就学前段階は 55.7%、大学などの高等教育段階が 66.3% と高く、家計を中心にした負担に頼っていることがうかがえる。

文科省は今年七月に初めて策定した教育振興基本計画で、十年後に公財政支出を GDP 比 5.0% まで引き上げる目標を明記しようとしたが、財政再建を目指す財務省の強い反発から、見送りとなった経緯がある。

人生精一杯

里の母が、99歳10ヶ月でこの世を去りました。あと2ヶ月で100歳だったので、本人も子供達も頑張ろうと応援していました。今でも一人になると次々と思い出が重なり涙が止まりません。

明治41年生まれの母は、2歳の頃に父親が亡くなったので、母親祖母近所の皆に育てられたと思い出話をし、伯父伯母の家から女専に迄通わせてもらったそうです。

婚期が遅く10歳違いの父と結婚した時が24歳、次々に子供が生まれ7人の子供を育てましたが、自分の時間などないに等しく食事作り父の手伝い夜は編み物とよく働きました。子供の成長が楽しみであり夢だったと話してくれました。戦時中は食べ物がなく、農家の方が捨てている小さな芋や玉ねぎを拾って帰り雑炊にしたそうです。私達子供7人は、「ひもじいひもじい」を皆で言うのでその声を聞くのが辛かったと話していました。

私もよく覚えています、戦時中は松山の練兵場の近くに住んでいた、パッタやいなごを捕り紙袋の中でフンを出させ、しょう油のつけ焼きにして食べさせてもらいました。これが今の蛋白源だったと思います。

皆で分け合って食べたことが6人の姉妹（一人4年生で亡くなりました）が今も元気で仲よく暮らしている要因かも知れません。

倒れる二日前にも近くに住む妹と二人で好物の餅を持って行き、思い出話をしながら楽しい一日を過ごしたところでした。妹が散髪もしきれいになり、今思えば旅立ちの準備だった様な気がして涙が止まりません。

救急車で市内の病院へ運ばれてからも、6人の姉妹が時間を決めて見守りましたが、三週間、高熱に冒され一生を終わりました。

母は生前、「戦時中女の子ばかり生まれ恥ずかしい思いをしたけど、女の子でよかった」と私達娘の思いやりを喜んでくれました。

亡くなって冷たくなっているのに、生き返ったのではと額に手をやり息をしているのではと、鼻に手を当てたりしましたが、思いは届きませんでした。

お棺に入れる前に妹に伝えていた箱を開くと白装束と八十八ヶ寺のご朱印入りの半てんと白足袋が入れてあり、戒名はお寺に頼んでありますと記されていて、皆で驚き又涙があふれ出ました。明治41年生まれ、百年近くこの世で生活した様々の事を父と話し合っている事でしょう。見習う事の多い母親でした。

(Sa. K)



ことしもジャコウアゲハが

9月10日夕方、洗濯物を取り入れた直後黒いものが目線を横切った。ジャコウアゲハだ！ ことしも姿を見せてくれた！

6月3日Kさんからジャコウアゲハの幼虫を5個もらってきた。その後2日ほどはウマノズクサを食べている姿をみていた。それ以来で、しかもちゃんと大人になった姿が見られるとは。

「おいで！おいで！」の言葉が通じるのか手の近くまで寄ってきてまつわりつく。ランタナの小さい花に口を入れ瞬間に蜜を吸うことを繰り返す。近くへ寄って行ってもすぐに逃げたりはしない。目線の高さを優雅に飛ぶ。庭の水場で、洗い物をしている夫の傍をひらひら「かわいいのう」と。

そんな様子が4日ほど見られたが、雨が降りそのうちに姿が見えなくなった。メス一羽だけだった。どうしているのだろう。

(S・K)

雑感

稲穂が頭を垂れ、次々に稲刈りが進み、辺りが芳ばしい香りに包まれています。彼岸花の鮮やかな緋色に縁取られた田では落ち穂をついばむ鳥たちが忙しそうです。留鳥のカワセミとも何故か毎年この時期にだけ出逢いがあり、今年も数日前、近くの水路の水面近くを滑る様に飛んでいく姿に暫し見惚れました。

今年の日本は極端に台風が少ない様ですが、各地で局地的なゲリラ豪雨の被害が相次いでいます。急速に進んだ都市型の治水のありかたが被害をよけいに大きくしている様に思えてなりません。雨水をはじめ、全ての排水を下水道からコンクリートの三面張の川へ、そして海へ流してしまおうという発想に無理と無駄がある様に思えます。排水溝から逆流してくる濁流、美しく造られた親水公園が一瞬にして浸水公園へと豹変していく様を日の当たりにすると人間が自然を想定し計算し制御することの無謀さを改めて思い知らされます。

この夏、松山市は限りなく猛暑日に近い真夏日が 54 日間も続き、その間殆ど雨が降らず台風 13 号もダムの水位回復には繋がらないまま 40%を切っています。例年の半分近い水位です。もともと松山市は水不足の悩みを抱えているため今年から雨水タンク設置に補助が出ることになりました。我が家でも今までの雨水タンクに新たにもう一つの雨水タンクを加え、最大 1 t 近くの雨水を溜めることができるようになりました。しかし 2 週間近くで底をつき、その後はひたすら空を見上げてはため息をつく毎日でした。雨水タンクを設置しても雨が降らなければただの無駄な容器にすぎません。1 日 1 t 近くの上水道を使用している我が家です。合併浄化槽からの排水を利用するようにしておけば良かったと後悔する日々です。九月に入って僅かながらも雨が降り砂漠のようだった畑に緑が戻ってきました。健気です。

8 月 26 日アフガニスタンでペシャワール会の青年が拉致、殺害されました。1986 年以來、中村哲医師の地道な活動が現地の人にも充分評価さ

れ受け入れられていたペシャワール会の中でも地元住民に最も溶け込んでいたメンバーの一人であった伊藤和也氏が殺害されるということは、それ程に今のアフガニスタンが悲惨な状況にあることが容易に想像できます。連日世界各地で紛争がおきています。ルワンダ、スーダンのダルフル、ジンバブエ、グルジア、ボスニア、パキスタン、インド、ミャンマー、中国のチベット、新疆ウイグル自治区、イラク、イスラエル、パレスチナ等々きりが有りません。民族間の対立や人権問題、宗教上の問題もあるでしょう。しかし先進国といわれる大国の身勝手な関与を否定することは出来ないと思うのです。先進国の需要に応じるために失った田畑。世界規模の早魃による穀物の凶作。投機マネーによる穀物や原油の異常高騰。すべての負の連鎖は弱い立場の人たちを直撃します。そんな不満が爆発した結果の紛争も少なくないと思えてなりません。テレビドラマの中で勝麟太郎は「上等な人間は力でひとを動かそうとはしやしません」と言い放ちます。世界中のリーダー達に聞いてほしいと思います。

解散総選挙前のお祭りを仕掛けたとしか思えない総理の突然の辞任。自民党宣伝隊としか思えない総裁選立候補者の街頭遊説。そんな政治空白の中で、ウルグアイラウンドによって定められたミニマムアクセス米の内の事故米が食用として転売されていたことが発覚しました。そもそも、日本ではお米は国産米さえも余っているのが現状です。輸入した時点で残留農薬が検出されれば生産国に戻し、検査に合格したお米は新しい内に支援米として食糧難に苦しんでいる国に貰ってもらうべきです。それを高額の保管費を使った拳句カビをはやし事故米を創り出し、利用されてもいない“工業用のり”の原料に売ることができたとしていたのは職務怠慢も甚だしいとしか言いようが有りませんし、意図的に目を瞑っていたと疑われても仕方が有りません。有害物質メラミンが混入した中国の乳製品が日本にも輸入されていたことも発覚しました。アメリカの大手金融機関の相次ぐつまづきが国債発行や年金にも影響を与える可能性が有るとも言われています。また、消えた年金記録だけでなく、標準報酬月額の変更による消された年金問題もますます大きくなってきています。少子高齢化社会の財源不

足の窮余の策として考え出された後期高齢者医療制度もあまりに評判が悪く、解散総選挙が近いためか見直し論も出始めています。急に高齢者がどこから突然大挙してやって来た訳ではないし、私たち団塊の世代が若かったころ DINK（夫婦二人の収入で子供を持たないで楽しむ生活）という考え方が流行していたことを考えれば少子化に傾くことは容易に想像出来た筈です。官僚たちが無能なのか賢すぎたのか。なにはともあれ彼らは間違いなく“学力テスト”では良い成績を得ていたに違いありません。その学力テストの地域別の結果公表にこだわる知事があります。結果は本人と保護者、指導者が知っていれば充分だと思いますし、そもそもそんなに学力にこだわる必要があるのでしょうか？今、真に必要なのはテスト結果には表われようのない、生きる力と命あるものすべてを慈しむ心を育てることだと思うのです。そして自分を冷静に表現できること、自分への批判こそを大切にすること、相手の意見を理解しようとすることを教え、話し合う力を育むことでしょう。そのためには親も教師も子供に係る総ての大人たちがもっともっとゆったりとした時間を子供たちと共有しなくては!! と痛感します。

オリンピックが済み、パラリンピックも終わりました。オリンピックではひたすら“日本ガンバレ!!”でしたが、パラリンピックを観戦している時には参加しているすべての選手を応援している自分がいました。そして今、彼らから何物にも代えがたい元気と爽やかな感動を受け取っていました。オリンピック精神はパラリンピックにこそ息づいているのかもしれませんが。

遠からず植物が CO₂ を吸収してくれなくなる時がくるとする人がいます。植物から得られる情報を数値化し計算した結果の一つの説ですから、真偽はともかくとして、今、地球が人間の我儘に耐えきれなくなって疲れ果てていることは確かです。今まで私たち人間の欲望にじっと我慢して付き合っただけで傷つきボロボロになってしまった地球をいたわり手当てしながら生活していかなければと思います。 (K.O.)

10月例会のお知らせ

10月22日(水)、昆虫研究家の楠先生のお宅を訪問し、お話しを伺います。楠先生のご自宅は、自然観察園になっており、博物館もあります。午前10:00に林さん宅を出発予定です。関心のある方は、会までご一報の上、ぜひご参加ください。

編集後記



三笠フーズによる米の偽装、愛媛でおこったウナギの偽装、そして丸大食品製のメラミン混入と食品偽装がつぎつぎと明らかにされてきている。グローバル化の時代ではあるが、「食べること」は、「命」にかかわることであり、それは地球環境そのものにつづくことである。私たちは、ものめずらしさや価格の安さにおどらされることなく、もっと本質的にものをみつめていかなければならないときに来ていると思う。

イギリスで1990年代半ばに唱えられた「フードマイレージ」いう考え方がようやく日本にも浸透し始めた。フードマイレージとは、食材の重さと輸送距離をかけあわせるもので、食品が届くまでのCO₂排出量がわかる。地球環境をまもるためにもわざわざ遠い外国の食材を買うのはできるだけ避けたい。そして、近いところのものほど監視もしやすいと思う。

食品会社は命をあずかる責任感をもってもらいたい。そして、農水省の検査体制も根本的に改めないといけない。消費者庁の役割にも注目したい。そして何よりも、私たち一人一人が食に対してもっと真摯にあるべきだろう。

(E.K.)

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com